

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第69号	氏名	秦 亮
学位審査委員	主査	有吉 紅也	印
	副査	平山 壽哉	印
	副査	小路 武彦	印
論文審査の結果の要旨			
<p>1. 研究目的の評価</p> <p>本論文の目的は、本邦における市中肺炎症例より分離された肺炎球菌の薬剤感受性と血清型の関係を明らかにすること、多剤耐性菌のうち最も高頻度に検出された血清型 19F と 23F 株について分子生物学的解析を行うことにあり、博士論文として妥当である。</p> <p>2. 研究手法に関する評価</p> <p>2001年11月から2003年8月の間に、日本国内20病院にて市中肺炎患者114名より分離された肺炎球菌114株について、9種類の抗生剤に対する最小発育阻止濃度(MIC)および血清型を調べ、さらに血清型19Fと23F株については、PCRによる薬剤耐性型解析、パルスフィールド電気泳動(PFGE)を用いた分子生物学的解析を行っており研究手法も妥当である。</p> <p>3. 解析・考察の評価</p> <p>MICの結果より、ペニシリン耐性非感受性肺炎球菌は58.9%(中等度感受性菌35.1%、耐性菌22.8%)と高頻度あることが判明し、耐性菌株の血清型として19Fと23Fが優位であることがわかった。さらに、19F株と23F株のPFGE解析により国際的に流行する多剤耐性株Taiwan19F, Taiwan23Fが最も高頻度に流行していることがわかった。また、これらの結果から肺炎球菌23価ポリサッカライドワクチンの有用性についても適切に考察されていた。</p> <p>以上のように、本論文は市中肺炎患者由来肺炎球菌における薬剤感受性・血清型・分子疫学的解析を、多施設から収集された分離株を用いて実施した点において新規性が認められ、本邦における耐性肺炎球菌の対策に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			

(注) 報告番号は記入しないこと